

深イ〜話!

No.22

〜小川守正さんの『実践経営学』（PHP研究所）より〜

昭和五十年の初めごろ、松下幸之助さんが、松下電器（現パナソニック）の子会社の新任役員になった小川さんたちを激励したいと、ホテルで昼食をご馳走されました。

フランス料理のコースも進み、メインのステーキが出てきましたが、みんなが平らげたのに、松下さんの皿を見ると、半分しか食べていませんでした。



そのとき、松下さんが、

「このステーキを焼いたコックさんと呼んできてんか。」といわれました。

コックさんはクレームかと思ってビクビクしていたところ、松下さんは、

「このステーキあんたがせっかく焼いてくれたけど、半分残すわ。

まずいんと違うんやで。おいしいんやけど、私はもう八十歳なんで、全部よう食べんのや。氣い、悪うせんといてや。」と言われたそうです。

それを聞いた小川さんは、松下さんの働く人への深い深い思いやり、愛の心を見て、胸がジーンとなり、目頭が熱くなるのを抑えることができなかつたといいます。